

「から」「ので」に翻訳された中国語表現

日本語(訳文)		中国語(原文)			
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文
	政治部が騒々しい◆ので◆、しばらく隣村へでも行くようにと莫俞同志が言った。		*因为*政治部太复杂, 莫俞同志决定要把我送到邻村去暂住,	A	我在霞村的时候 霞村にいた時
	おまげに彼女は「改造派」の纏足だし、私も気分がすぐれない◆ので◆、午前中に出発したのに、陽が山へ沈む頃になってようやく目的地へ着いた。		加上她是一个“改革派”的脚, 我的精神又不大好, 我们上午*就*出发, 太阳快下山了, 才到达目的地。	B	我在霞村的时候 霞村にいた時
	さいわい阿桂が多少はこの村を知っている◆ので◆、山案内してくれることになったが、		幸好阿桂对这村子还熟, 她引导我走上山。	C	我在霞村的时候 霞村にいた時
	眠れない◆ので◆明かりの下でトランクを整理し、練習帳や写真をめぐるたら、鉛筆を削ったりした。		我不能睡去, *便*在灯底下整理着小箱子, 翻着那些练习簿、相片、又削着几支铅笔。	B	我在霞村的时候 霞村にいた時
ここはわりあい静かだし、すべて劉二媽に頼んであります◆から◆、何かあれば遠慮なく彼女に言ってください。		这地方还比较安静, 凡事放心, 都有我, 要什么尽管问刘二妈。		C	我在霞村的时候 霞村にいた時
僕は隣り庭のほう、下のいくつか密洞が並んだ所に住んでいます◆から◆、用事があつたら呼びに来させてください		我就住在邻院, 下边的那几个窑, 有事就叫这里的人找我。		C	我在霞村的时候 霞村にいた時
	オンドルには上がろうとせず、土間に腰掛けもない◆ので◆私も下へおりた。	他不肯上炕来坐, 地下又没有凳子, 我*便*也跳下炕去:	他不肯上炕来坐, 地下又没有凳子, 我*便*也跳下炕去:	B	我在霞村的时候 霞村にいた時
	喧嘩はしたくない◆ので◆、怒りをこらえて店を出た。		我忍住气, *因为*不愿同他吵, *就*走出来了。	A	我在霞村的时候 霞村にいた時
	そのうち昨日の娘が姿を見せた◆ので◆、オンドルから飛びおり外へ出て声をかけたが、		后来我看见那小姑娘出来了, *于是*跳下炕到门外去招呼她,	A	我在霞村的时候 霞村にいた時
長いこといた◆から◆、一年以上も行ったり来たりして、		时间太久了, 跑来跑去一年多,		C	我在霞村的时候 霞村にいた時
両親のことも心配だった◆から◆、ここへ戻ってきたんです。		我也挂牵我的爹娘, 回来看看他们。		C	我在霞村的时候 霞村にいた時
ちょうど急ぎの情報があつて届けに来ただけけれど、代りの人が見つからない◆から◆、その夜はひとりで闇の中を往復十五キロも歩いたわ。		又赶上有一个消息要立刻送回来, 找不到一个能代替的人, 那晚上摸黑我一个人来回走了三十里,		C	我在霞村的时候 霞村にいた時
	顔がややむくんでいた◆ので◆、火にかざした貞貞の手を取ってみると、びっくりするほど熱く、私を不安にした。		我看见贞贞脸上稍稍的有点浮肿, 我去握着那只伸在火上的手, 那种特别使我感觉刺激的炎热又使我不安了。	C	我在霞村的时候 霞村にいた時
	文豪だ◆から◆構わないので、		但文豪*则*可,	A	阿Q正传 阿Q正伝
	文豪だから構わない◆ので◆、私などにまねのできることはない。		但文豪则可, 在我辈却不可的。	C	阿Q正传 阿Q正伝
	文体が下卑でいて「車ひきや行商人」の文章だ◆から◆、とても「本伝」などと口幅太いことは言えない。		*因为*文体卑下, 是“引车卖浆者流”所用的话, *所以*不敢僭称,	A	阿Q正传 阿Q正伝
	その噂をきいた連中は、ロクに、阿Qはあまりデタラメなことを言う◆から◆、自分から殴られるような目にあうのだ、		知道的人都说阿Q太荒唐, 自己去招打;	C	阿Q正传 阿Q正伝
	ところが彼は、ひとりっきりである◆から◆、「阿貴」と書くのも、証拠がない。		而他又只是一个人: 写作阿贵, 也没有佐证的。	C	阿Q正传 阿Q正伝
	ただ惜しいかな、この姓があてにならぬ◆ので◆、それで出身地も即断はできかねる。		但可惜这姓是不甚可靠的, *因此*籍贯也有些决不定。	A	阿Q正传 阿Q正伝
	彼は未荘に長く住んでいはいしたが、しょっちゅうほかへも行ってた◆から◆、未荘の人であるともいえない。		他虽然多住未庄, 然而也常常住在别处, 不能说是未庄人,	C	阿Q正传 阿Q正伝
	未荘の人々の阿Qにたいする関係は、仕事に雇うことと、からかうこととに限られていた◆から◆、彼の「行状」などに注意を払うことはなかった。		*因为*未庄的人们之于阿Q, 只要他帮忙, 只拿他玩笑, 从来没有留心他的“行状”的。	A	阿Q正传 阿Q正伝
	ひまになると、阿Qそのものさえ忘れてしまう◆から◆、まして「行状」どころではない。		一闲空, 连阿Q都早忘却, 更不必说“行状”了。	C	阿Q正传 阿Q正伝
	加うるに彼は城内へも何回か行っている◆ので◆、自尊心の強くなるのも当然であった。		加以进了几回城, 阿Q自然更自负,	C	阿Q正传 阿Q正伝
	ところで未荘の奴らは、世間知らずのおかしな田舎者ときいている◆から◆、城内の魚のから揚げさえ見てやしないのだ。		然而未庄人真是不见世面的可笑的乡下人呵, 他们没有见过城里的煎鱼!	C	阿Q正传 阿Q正伝
	阿Qは「むかしは偉かった」し、見識も高いし、しかも「よく働く」◆から◆、本来なら「完璧な人物」と称して差しつかえないほどであるが、		阿Q“先前阔”, 见识高, 而且“真能做, 本来几乎是一个“完人”了,	C	阿Q正传 阿Q正伝
	ひとたび噂にのぼると、殴った方が有名な人だ◆から◆、殴られた方もそれにつれて有名になる。		一上口牌, 则打的*即*有名, 被打的*也*就托庇有了名。	A	阿Q正传 阿Q正伝
	まさか世間で噂するように、皇帝が科学を廃止されて、秀才も挙人もなくなった◆ので◆、それで趙家の威風が地に墜ちて、従って彼までもバガにされるようになったのだろうか。		难道真如世上所说, 皇帝已经停了考, 不要秀才和举人了, *因此*赵家减了威风, 因此他们也便小觑了他么?	A	阿Q正传 阿Q正伝
	阿Qは、自分の手柄が賞讃を博した◆ので◆、ますます意気揚々		阿Q看见自己的勋业得到赏识, *便*愈加兴高采烈起来:	B	阿Q正传 阿Q正伝
	一五、六年前、彼は芝居小屋の人ごみのなかで、女の尻を抓ったことがあつたが、そのときはズボン越しであつた◆から◆、後でふらふらにはならなかつた一		他五六年前, 曾在戏台下的人丛中拏过一个女人的大腿, 但*因为*隔一层裤, *所以*此后并不飘飘然,	A	阿Q正传 阿Q正伝

日本語(訳文)		中国語(原文)				
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文	
	お役所勤めをしたお備方に限って使う文句だ◆から◆、特別すごみがあった、特別印象に残った。		*因为*这话是未庄的乡下人从来不用, 专是见过官府的阔人用的,*所以*格外怕, 而印象也格外深。	A	阿Q正传	阿Q正传
	しばらくついでにうちに、暑くなってきた◆ので◆、彼は手を休めて上衣を脱いだ。		春了一会, 他热起来了,*又*歇了手脱衣服。	B	阿Q正传	阿Q正传
	最後に、夜中だという◆ので◆、組頭への祝儀は倍にして四百文払わなければならなかった。		临末,*因为*在晚上, 应该送地保加倍酒钱四百文,	A	阿Q正传	阿Q正传
	阿Qは現ナマがなかった◆ので◆、帽子を質に入れた。		阿Q正没有现钱,*便*用一顶毡帽做抵押,	B	阿Q正传	阿Q正传
	さいわい、もう春である◆から◆、布団はなくても済む。		幸而已经春天, 棉被可以无用,	C	阿Q正传	阿Q正传
	彼はしかし鉄の鞭を持っていなかった◆ので◆、殴りつけるより仕方なかった。		但他手里没有钢鞭,*于是*只得扑上去,	A	阿Q正传	阿Q正传
	およそ半時間――未荘には時計がない◆から◆、正確なことはわからない。		大约半点钟,――未庄少有自鸣钟,*所以*很难说,	A	阿Q正传	阿Q正传
	にせ毛唐でも大して問題にされぬくらいだ◆から◆、まして阿Qなど物の数でない。		假洋鬼子尚且不足数, 何况是阿Q:	C	阿Q正传	阿Q正传
	この「庭訓」をきいて、秀才は心からなるほどと思った◆ので◆、阿Q放逐の動議を即刻撤回した。		秀才听了这“庭训”, 非常之以为然,*便*即撤消了驱逐阿Q的建议,	B	阿Q正传	阿Q正传
	あの夜、彼は包みをひとつ受け取って、さらに本職が再び忍び込むと間もなく、内でがやがや騒ぎが起きた◆ので◆、あわてて逃げ出して、夜を冒して城をはい出て未荘へ逃げ帰り、もう二度と再び行く気がしない、というのである。		有一夜, 他刚才接到一个包, 正手再进去, 不一会, 只听得里面大嚷起来, 他*便*赶紧跑, 连夜爬出城, 逃出未庄来了, 从此不敢再去做。	B	阿Q正传	阿Q正传
	事実、举人旦那と趙秀才とは昵懇というほどではない◆から◆、「患難を共にする」だけの情誼がない理屈である。		其实举人老爷和赵秀才素不相能, 在理本不能有“共患难”的情谊,	C	阿Q正传	阿Q正传
	まして鄰七嫂は趙家の隣に住んでいて、見聞がそれだけ真に近いわけだ◆から◆、おそらくこの説の方が正しいのであろう。		况且邻七嫂又和赵家是邻居, 见闻较为切近,*所以*大概该是伊对的。	A	阿Q正传	阿Q正传
	いずれ損はないことだ◆から◆、衣裳箱を引き取ったそう、		觉得于他总不会有坏处,*便*将箱子留下了,	B	阿Q正传	阿Q正传
	年とった尼が出てきて邪魔した◆ので◆、二、三押問答の末、両人は尼を満州政府なりとして、したたか頭上にステッキと鉄拳とを加えた。		*因为*老尼姑来阻挡, 说了三句话, 他们便将伊当作满政府, 在头上很给了不少的棍子和栗凿。	A	阿Q正传	阿Q正传
	折から阿Qも、城内の昔の友だちを訪問する予定であったが、この噂をきいた◆ので◆、止むなく取りやめにした。		阿Q本也想进城去寻他的老朋友, 一得这消息,*也*只得作罢了。	B	阿Q正传	阿Q正传
	髪切り騒ぎが起きた◆ので◆中止してしまった。		但*因为*有剪辮的危险,*所以*也就中止了。	A	阿Q正传	阿Q正传
	銭の邸の表門はちょうど開いていた◆ので◆、阿Qは恐る恐る忍び足にはいつて行った。		钱府的大门正开着, 阿Q*便*怯怯的bi进去。	B	阿Q正传	阿Q正传
私は短気なものであります◆から◆、顔さえ見ればこう申しました。ノウーこれは外国語である◆から◆、諸君にはわからない。		我是性急的,*所以*我们见面, 我总是说: 洪哥! No! ——这是洋话, 你们不懂的。		A	阿Q正传	阿Q正传
	まがったところでその男が立ちどまった◆ので◆、阿Qも立ちどまった。		既转弯, 那人站住了, 阿Q*也*站住。	B	阿Q正传	阿Q正传
	ただ、はっきり見えない◆ので◆、もっと前へ出ようとしたが、両足とも言うことをきかなかった。		但是不分明, 他还想上前, 两只脚却没有动。	C	阿Q正传	阿Q正传
	衣裳箱を担ぎ出し、家具を担ぎ出し、秀才の細君の寧波寝台まで担ぎ出し……あまり担ぎ出す◆ので◆、彼はどうやら自分の目が信じられなくなってきた。		箱子抬出了, 器具抬出了, 秀才娘子的宁式床也抬出了, ……抬得他自己有些不信他的眼睛了。	C	阿Q正传	阿Q正传
	ついに二千貫の賞金を懸けた◆ので◆、はじめて二人の自警団員が危険を冒して壁を乗り越え、内外呼応して一挙に踏み込み、阿Qを引っぱり出した。		悬了二十千的赏, *才*有两个团丁冒了险, yu埋进去, 里应外合, 一拥而入, 将阿Q抓出来;	B	阿Q正传	阿Q正传
	先方でも阿Qに尋ねる◆ので◆、阿Qははっきり答えた。「謀叛しようと思ったんだ」		他们问阿Q, 阿Q爽快的答道, “因为我想造反”	C	阿Q正传	阿Q正传
	ところが隊長は「ご随意に」とつばねた◆ので◆、その夜、举人旦那は一睡もできなかったのである。		而把总却道, “请便罢!” *于是*举人老爷在这一夜竟没有睡,	A	阿Q正传	阿Q正传
	彼は、恐ろしさに生きた空もなかった◆ので◆、さいわい、鉈を一丁手にしていた◆ので◆、そのお蔭で胆を鎮めて、どうにか未荘まで辿りつくことができた。		他那时吓得几乎要死, 幸而手里有一柄柴斧刀, 才得仗这壮了胆, 支持到未庄;	C	阿Q正传	阿Q正传
	ときどき眼の玉が動く◆ので◆、ようやく生きていと見分けられるくらいだ。		只有那眼珠间或一轮,*还*可以表示她是一个活物。	B	祝福	祝福
	相手の視線がじかに注がれている◆ので◆、背筋までトゲを突きさされたような感じがした。		一见了她的眼钉着我的, 背上*也*就遭了芒刺一般,	B	祝福	祝福
	よもやと思っていること、まさか起るまいと思っていることが、あいにく、その通りになってしまうようなことが、これまでもしばしばあった◆ので◆、こんどのことも、その伝ではないかと、実は気にかかった。		我*因为*常见些但愿不如所料, 以为未必竟如所料的事, 却每每恰如所料的起来,*所以*很恐怕这事也一律。	A	祝福	祝福
	だが相手は、下を向いたまま◆ので◆、少しも気づかなかった。		但他始终没有抬头,*所以*全不觉。	A	祝福	祝福

日本語(訳文)		中国語(原文)				
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文	
	だが、この叔父は「鬼神は二気の良能なり」を読んでいくせに、なかなか担ぎ屋であることを知っている◆ので◆、祝福のまぎわになって、死とか病とかいう言葉を口に出すわけには万々いかなかった。		但知道他虽然读过“鬼神者二气之良能也”，而忌讳仍然及多，当临近祝福的时候，是万不可提到死亡疾病之类的语的；	C	祝福	祝福
	だが、周旋したのが衛家山のもので、その隣りの家だというの◆から◆、たぶん、彼女も姓は衛なのだろう。		但中人是卫家人，*既*说是邻居，*那*大概也就姓卫了。	A	祝福	祝福
	彼女は、そっくり主人の家へ預けて、一文も使っていない◆ので◆、そのまま姑の手に渡した。		她全存在主人家，一文也还没有用，*便*都交给她的婆婆。	B	祝福	祝福
	彼女は腹がへった◆ので◆、昼飯を思い出したのだろう。		她大约有些饿，记得午饭了。	C	祝福	祝福
あらまあ、とんでもない、だまされたんですよ。あたしあ、そう思ったこと◆から◆、わざわざお断りに来たんです。		阿呀阿呀，我真上当。我这回，就是为此特地来说清楚的。		C	祝福	祝福
	衛家山の実家へ四、五日帰っていた◆ので◆、それで来るのがおそくなった、といいわけを言った。		自说*因为*回了一趟卫家山的娘家，住了几天，*所以*来得迟了。	A	祝福	祝福
そこへいくと、山奥は嫁の来手が少ない◆から◆、たんまりと、八十貫も手に入れましたよ。		惟独青嫁进深山野奥里的女人少，*所以*她就得到手了八十千。		A	祝福	祝福
何でも、読書人の家に奉公していた◆ので◆、それで並みのものちがうのだろう、		大家还说大约*因为*在念书人家做过事，*所以*与众不同呢。		A	祝福	祝福
あれの亭主はごく頑丈なたちでした◆から◆、まさかあの年で、チフスでなくなろうとは思いませんでした。		她的男人是坚实人，谁知道年纪青青，就会断送在伤寒上？		C	祝福	祝福
仕合せなことに子どもはありますし、あれがまた、柴刈りでも茶摘みでも蚕でもぼんででもできますので、後家を立てていれられたわけですが、その子どもがあなた、狼に食われてしまったんですよ。		幸亏有儿子；她又能做，打些摘茶养蚕都来得，本来还可以守着，谁知道那孩子又会给狼衔去呢？		C	祝福	祝福
そんなわけで、ひとりぼっちになったところへ、本家の兄がきて、家を取り上げて、追い出しましてね、どこへも行くところがない◆ので◆、昔の御主人を頼んで参ったわけです。		现在她只剩一个光身子，大伯来收屋，又赶她。她真走投无路了*只好*来求老主人。		B	祝福	祝福
あの子が出ていきました◆ので◆、私は裏で薪を割って、米をといで、その米をしかけて、それから豆を煮ようと思つて、		他出去了。我就在屋后劈柴，淘米，米下了锅，要蒸豆。		C	祝福	祝福
阿毛を呼びましたが、返事ありません◆ので◆、出ていってみますと、豆がそこらじゅうに散らばっていて、うちの阿毛がいらないです。		我叫阿毛，没有应，出去一看，只见豆撒得一地，没有我们的阿毛了。		C	祝福	祝福
よその家へ遊びに行くはずはありませんし、それで方々きいてみましたが、どこにもいない◆ので◆、私は気が気でなく、人を頼んで探してもらいました。		他是不到别家去玩的；各处去一问，果然没有。我急了，央人出去寻。		C	祝福	祝福
	この女は、かわいそうはかわいそうであるが、風紀をみだした奴だ◆から◆、仕事をやらせるのはかまわぬとして、祭の時だけは手を触れさせないでくれ。		这种人虽然似乎很可怜，但是败坏风俗的，用她帮忙还可以，祭祀时候可用不着她沾手，	C	祝福	祝福
あの子が出ていきました◆ので◆、私は裏で薪を割って、米をといで、その米をしかけて、それから豆を煮ようと思つて、		他就出去了。我就在屋后劈柴，淘米，米下了锅，打算蒸豆。		C	祝福	祝福
	四叔の家では、今年は男の臨時雇を入れたが、それでも手が廻りかねる◆ので◆、さらに柳媽にも手伝わせた。		四叔家里这回须雇男短工，还是忙不过来，另叫柳媽做帮手，	C	祝福	祝福
	祥林嫂は、火焚きのほかに仕事がなく、ひまだ◆から◆、ただ坐って柳媽の器を洗うのを見ている。		祥林嫂除烧火之外，没有别的事，却闲着，坐着只看柳媽洗器皿。	C	祝福	祝福
	神主は、はじめのうちは頭から断っていたが、しまいに涙までみせてくだかれた◆ので◆、不承不承に引受けた。		庙祝起初执意不允许，直到她急得流泪，*才*勉强答应了。	B	祝福	祝福
あなたは、あたしが態度をはっきりするよにどの思召してした◆から◆、あらましここであたしの今までのことをお話ししなければならないのですが、しかしどうか今暫くこの秘密を守って下さるように願います。		你*既*是要我把态度显示出来，我*就*得略把前事说一点给你听，可是要求你暂时守这个秘密。		A	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
あなしは大してお腹もすいてないよ◆から◆、盛って来なくていいよ		我不觉得十分饥饿，不必端上来，你们可以自己方便去。		C	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	其処まで言うと、いさか失言のような気がし、傭人たちが聴いて気をわるくすると思つた◆ので◆、言葉を改めて、		她说到这里，觉得有点失言，教她的佣人听了不舒服，*就*改过一句说话：“若是你们明白他的境遇，也许会体贴他。”	B	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
この人の血で蒲団の穢れることなぞ心配はいらない◆から◆、さっさと手を貸して寝かしてあげなさい。		你们不要怕他的血沾脏了那垫子，尽管扶他躺下罢。		C	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	彼女が二階着物を着換えに上がろうとしてふり返った途端に、外でととませかせかと門を敲く音が聴こえた◆ので◆、歩みを止めて、訊ねた。		她正转身要上楼去换衣服，听得外面敲门的声音很急，*就*止步回说：	B	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	妾娘がそんな言葉を口にした◆ので◆、彼女はひどく焦ら立って来た。		妾娘提起这四个字，*教*她很着急。	B	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛

日本語(訳文)		中国語(原文)				
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文	
	彼女の慈悲心は天賦のもので、こうしたやり方は自分の信仰とも、受けた教育とも、ちっとも衝突するものではないと思った◆ので◆、「そうですね。学校ではこうするように教えています。教会でもこうするように教えています。……」		她的慈悲性情是上天所赋的,她也觉得这样办,于自己的信仰和所受的教育没有冲突,*就*回答说“是的,学堂叫我这样做,教会也叫我这样做……”	B	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	そうして、自分の犯した罪の圧迫を感じると、これ以上こんなところに愚図愚図してはいられぬ◆ので◆、早速雲を霞と逃げ出した。		那时,他觉得自己的罪恶压住他,不许在逗留在那里,*便*一溜烟似地往外跑。	B	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	ところが尚潔の敏感さは、刀ぐらいでは一向に傷を負わず、史夫人がこの謎を解き悩んでいることを早くも知った◆ので◆、「いまのあたしには、あなたに細かくお話しする気力はないので、どうぞ妾娘のところへ行って、聴いて下さいな。……」		但尚洁的颖悟性从不会被刀所伤,她早明白史夫人猜不透这个闷葫芦,*就*说:“我现在没有力气给你细说,你可以向妾娘打听去。”	B	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	いまのあたしには、あなたに細かくお話しする気力はない◆ので◆、どうぞ妾娘のところへ行って、聴いて下さいな。……	“我现在没有力气给你细说,你可以向妾娘打听去。”		C	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	もう長いこと庭へ出たことがないと思った◆ので◆、史夫人に扶けてもらってそろそろと出てみた。		她想许久没有到园里去,*就*央求史夫人扶着她慢慢走出来。	B	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	彼女は、傷という字を口に出しては、尚潔の心を傷めるだろうと怖れた◆ので◆、このように答えたわけである。		她怕说出伤字,要伤尚洁的心,*所以*这样回答。	A	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	尚潔の眼には、明らかに一つの立派な花だった◆ので◆、どうしてもそれを摘んで見せてくれと言ひ、		但尚洁的明明是一朵好花,直教递过来给她看。	C	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	彼女が自分の身の上を連想しているとわかった◆ので◆、史夫人は「それは、尤もだわ……」		史夫人知道她连想到自己的事情头上,*只*回答说:“那是当然的,……”	B	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
あたしが、あの可哀そうな人を、警察に引渡さなかった◆ので◆、それであたしを罰するのでしょうか?		* 因为 * 我没有把可怜的人交给警察,* 便 * 责罚我么?		A	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
これはあの人たちがそう信じているんです◆から◆、あたしに何の言うべきことがあります!		这是他们所信的,我有什么可说的呢!		C	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
あたしはもともと、あの人と正式に結婚式を挙げたわけではありません◆から◆、せぜん法廷に出て表立った離婚の手続など取る必要もないのです……		我本没有正式和他通过婚礼,自毋须乎在法庭上公布离婚。		C	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
めぐんだ恩恵も、少なくはないんです◆から◆、残してあの人に……		他賜給我的恩惠已是不少,留着给他……		C	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	史氏は、彼女が充分自分の将来の生活を解決し得ることを深く信じた◆ので◆、その言葉を聴くとそれ以上は何も言わず、ただ僅かに眉根を寄せただけである。		史先生深信她能够解决自己将来的生活,一听了她的话,便不再说什么,只略略把眉头皱了一下而已。	C	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	彼等はダヴォイ地方に別荘を一つ持っていたが、尚潔を其処へやって療養させたらと思いついた◆ので◆、ここで彼女ははじめて口を開いた。		他们有一所别业在土华地方,早就想教尚洁到那里去养病;到现在她*才*开口说:	B	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
それでも、わたしたちはふたりとも旅をしつけてるものだ◆から◆、どんなに逆まく波にもへこたれはしない筈だ。		但我们都是惯于出门的人,海涛的颠簸当然不能制服我们。		C	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	彼女は、自分のことで他人に迷惑をかけたくなかった◆ので◆、史夫人に一しよに行ってもらうことは断った。		她不愿意自己的缘故教别人麻烦,*因此*不让史夫人跟着前去。	A	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	その海には相当に真珠が出る◆ので◆、其処に住んでいる者の大半は、宝探しの客である。		那海里出的珠宝不少,*所以*住在那里的多半是搜宝之客。	A	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	其処に住んでいる人々は、みんな彼女を誰かに棄てられた女だと言って見下げていた◆ので◆、彼女のつき合ひはすべて真珠船に働く工員連中だった。		住在那里的人都说她是人家的弃妇,就轻看她,*所以*她所交游的都是珠船里的工人。	A	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	佩荷は彼女を知らなかった◆ので◆、怖がって、これも大声をあげて泣き出した。		佩荷*因为*不认得她,害怕起来,也放声哭了一场。	A	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
あの人は、これまでずっとわたしたちは疎遠になっていて、この何年間にも僅かにこれが一回だった◆ので◆、この訪れは、わたしたちには非常に不思議に思われた。		他一向就和我们很生疏,好几年也不拜访一次,*所以*这次的来,教我们很诧异。		A	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	彼女は自分の経て来たいろいろの辛いことをみんな洗いざらい吐き出したくはなかった◆ので◆、ただこう言った。「此処へ来てもう幾年にもなりませんが、無駄に時間をつぶしたとも考えられませぬ……」		史先生问起她在这里的事业如何,她不愿意把所经历的种种苦处尽说出来,只说:“我来这里,几年的工夫也不算浪费,……”	C	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
	尚潔は自分の仕事にちゃんと区切りをつけておいて可望を待たが、いくら待ってもやってくれない◆ので◆、史氏と一しよに帰って行くことにした。		尚洁把她的事情结束停当,等可望不来,打算要和史先生一同回去。	C	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
奥さん、可望を待つことはない◆から◆、明日でも明後日でもすぐと越して行きなさいよ。		夫人,你不必等可望了,明后天*就*搬回去罢。		B	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛
今では自分もこれまでの邪悪な行ないや乱暴な癖を改めようと思っているし、更に女房がこの数年来受けて来た苦しみを償いたいとも考えている◆ので◆、当分の間どうしても女房と離れていなければならぬ、と言っている。		现在他要把从前邪恶的行为和暴躁的脾气改过来,且要偿还你这几年来所受的苦楚,*故*不得不暂时离开你。		A	綴网劳蛛	巢をつくる蜘蛛

日本語 (訳文)		中国語 (原文)			
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文
あなたに直接手紙を書かないわけは、あなたが悲しむのを怖れた◆から◆だそう、		他不直接写信给你的缘故,是怕你伤心。		C	綴网劳蛛 巢をつくる蜘蛛
あたしには別にきまった考えはないんです◆から◆、何事か起これば起こったときのことで、適当にそれに応じてやってみよう。		我是没有成见的,事情怎样来,我怎样对付就是。		C	綴网劳蛛 巢をつくる蜘蛛
奥様のお部屋はひどく散らかっております◆から◆わたくしが何もかもきちんと取片付けてから、お上がり下さいませ。		你的房间乱得很,等我把我各样东西安排好再上去。		C	綴网劳蛛 巢をつくる蜘蛛
うしろのあの釈迦頭が、絹張りの傘のように大きくなりまして、かなり実もなっております◆から◆、行って御覧なさいませよ。		后面那棵释迦头长得像罗伞一样,结果也不少,去看看罢。		C	綴网劳蛛 巢をつくる蜘蛛
	史夫人がまた何か言おうとした時、妾娘がやって来て、お部屋が立派に片付きました◆から◆、どうぞ皆様おはいりになって御覧なさいませうに、と言った。		史夫人还要说时,妾娘来说屋子已经收拾好了,请她们进去看看。	C	綴网劳蛛 巢をつくる蜘蛛
	彼は蜘蛛だ◆から◆、そうせずにはいられないのだ!		* 因为 * 它是蜘蛛, 不得不如此!	A	綴网劳蛛 巢をつくる蜘蛛
	面会室の戸口で大声に話す◆ので◆、まわりはもう級友たちが大勢とりかこんでいたが、		在接见室的门口嚷嚷着,四周已经是围满着同学,	C	手 手
	舎監は自分の身の上を話すのが得意で、彼女の夫が日本に留学していたとき、彼女も日本にいたのだ◆から◆留学したことになるというのだった。		舎监常常讲她自己的事情,她的丈夫在日本留学的时候,她也在日本,*也*算是留学。	B	手 手
私たちのところはもうだめ、満員なんです◆から◆。		我们不要,我们的人数够啦!		C	手 手
	しまいにすっかりふざけてきまって、なかには王亜明の黒い手が怖い◆から◆近寄らないのだなどという者まで出た。		后来她们就开着玩笑,甚至于说出害怕王亚明的黑手*而*不敢接近她。	A	手 手
	むろんそれは夜更けであった◆ので◆、彼女と話しながら私は壁にうつる影ばかり見つめていた。		那当然是夜晚,*所以*她和我谈话的时候,我都是看看墙上的影子。	A	手 手
わかんねえだ……来るのが早過ぎる◆から◆濡れちゆうだ。		谁知道?他说来得太早,让我回去。		C	手 手
	ある日曜日、寄宿舎の中はガラんと静かであった。私は大声で「ジャンクル」を読んでいたが、ちょうど女工のマリアが雪の上に昏倒するくだりは、窓の外の雪を見ながら読んでいた◆ので◆、たいへん感動させられた。		有一个星期,宿舍里面空空的,我就大声读着《屠场》上正是女工马利亚昏倒在雪地上的那段,我一面看着窗外的雪地一面读着,觉得很感动。	C	手 手
	枕もどでしわがれた声が聞こえ、誰かが私のベッドの枕もとをさぐっているらしい◆ので◆、ふり返ってみると、王亜明の黒い手が、いつか私が貸した本を傍におこうとしているのだった。		我听到床上有沙沙的声音,好像什么人在我的床头摸索着,我仰过头,在月光下我看到是王亚明的黑手,并且把我借给她的那本书放在我的旁边。	C	手 手
	それはまるでこの最後の一日に彼女を経過する思念は何もかも重要なものだ◆から◆、ぜひとも何か跡を残しておかなければならぬとでもいったふうであった。		……好像所有这最末一天经过她的思想都重要起来,都必得留下一个痕迹。	C	手 手
	朝早かった◆ので◆、見物に集まった級友はごく少なかった。		* 因为 * 是早晨,来围观的同学们很少。	A	手 手
	彼が興のむくま本を讀むのを知っていた◆から◆、宗教を話題にしたからといって、彼が厭世的になったとか、何か大きな精神的な変化があったとは思われなかった。		我知道他的读书全凭兴之所至,决不会因为谈到宗教而想他有点厌世,或是精神上有什么大的变动。	C	黒李和白李 黒李と白李
黙っているのは、危険なことだ◆から◆だ。		不说*便*是有危险性!		B	黒李和白李 黒李と白李
	私は言った、老四の「計画は将来の事業のことを言っている◆ので◆、今なにか具体的な方法があるわけではない、と、		我说老四的计划是指着将来的事业而言,不是现在有什么具体的办法。	C	黒李和白李 黒李と白李
	彼の行動は、あたかも生命を玩具にしているかのようなだったが、それは、彼はどんなに些細なことでても慎重に考慮した◆から◆だ。		他的动作仿佛是拿生命当作小玩艺,那*正是因*他对任何小事都要慎重的考虑。	A	黒李和白李 黒李と白李
	しかし、私は老李がとてもしきた◆から◆、彼には天の仙女を妻とする資格だと思っていた。		可是我太爱老李,*总*觉得他值得娶个天上的仙女。	B	黒李和白李 黒李と白李
どんなにすばらしい主人だってやはり主人です◆から◆、肩をならべて兄弟となれやしません。		多么好的主人也还是主人,不能肩膀并为弟兄。		C	黒李和白李 黒李と白李
	私は彼の話に続きのあるのがわかっていて◆ので◆、彼の酔いが濃い茶でさめはしないかと気が気ではなかった。		我晓得他还有话说,直怕他的酒气被醇茶给解去,	C	黒李和白李 黒李と白李
	結婚後、城内は暑い◆ので◆、君は僕と一緒に君の家に行って数日を過ごした。		结婚之后,*因为*城中天气暑热的缘故,你*就*同我同你家住去了几天,	A	萋蘿行 萋蘿行
	こんな考えがあった◆ので◆、去年の夏の眠れぬ夜に、重い足を引きずり、黄浦江の畔へ何度か行つたのだが、やはり自殺しなかった。		我*因为*有这一种想头,*所以*去年夏天在睡不着的晚上,拖了沉重的脚,上黄浦江边去了几次,仍复没有自杀。	A	萋蘿行 萋蘿行
	第一に、僕らの国家や社会は、僕を用いて仕事をさせ、金を稼いで僕自身と君を養えるだけの力持たせることができなぬ◆から◆、現代社会がこの責任を負うべきなのだ。		第一我们的国家社会,不能我用去作他们的工,使我有气力不能卖钱来养活自家和你,*所以*现代的社会,就应该负这责任。	A	萋蘿行 萋蘿行
	第三に、僕の母とその親戚のものは、僕に君を養う能力がないのをしりながら、ひたすら結婚を勧めたのだ◆から◆、彼らもこの責任を負うべきなのだ。		第三我的母亲戚族,知道我没有养活你的能力,要苦苦的劝我结婚,他们*也*应该负这责任。	B	萋蘿行 萋蘿行

日本語(訳文)		中国語(原文)				
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文	
	辛い黄金どきだった◆ので◆、公園の周りに行き来する人はおらず、それでこころゆくまで泣くことができた。		幸亏在黄昏的时节,公园的四周没有人来往,所以我得尽情的哭泣。	C	葛蘿行	葛蘿行
	君は僕とすでに半年暮らして、僕がどんなに教師稼業を嫌い、いかに苦痛にしていたか、分かっていると思う◆ので◆、ここで話す必要はあるまい。		你和我已经住了半年,我的如何不愿教书,教书的如何苦法,想是你所知道的,我在此处不必说了。	C	葛蘿行	葛蘿行
	三つには、僕に普段から浪費癖があった◆ので◆、教師の職を辞せば、すぐに六月と同じように、またあの失業の苦しみを味わわねばならなくなると思ったからだ。		第三我平时原是挥霍惯了的,一想到辞了教授的职后,就有不得不同六月间一样,尝那失业的苦味。	C	葛蘿行	葛蘿行
	その時、君の神経はすでに混乱していた◆ので◆、おそらくはつきりとおぼえていないだろうが、僕はちゃんとおぼえている。		那时候你的神经已经昏乱了,大约已记不清楚,但我却牢牢记着的。	C	葛蘿行	葛蘿行
	これはいつもの姿だった◆から◆、見ていると煩わしくなり、それですぐ寝返りを打って、寝台の内側に向いた。		这是你的常态,我看得不耐烦了,所以就翻了一个身,面朝着了里床。	C	葛蘿行	葛蘿行
	その時はただ眠いばかりだった◆ので◆、君と話をしなかった。		我那时候只觉得好睡,*所以*没有同你讲话。	A	葛蘿行	葛蘿行
	僕らの家は富豪ではないが、中産階級にははいる◆から◆、君を養い、僕を養い、僕らの龍児を養うくらいは米はある。		我们家里,虽则不是富豪,然而也可算进中产,养养你,养养我,养养我们的龙儿的几粒米是有的。	C	葛蘿行	葛蘿行
	君は僕の胸中の憂いを知っていた◆ので◆、ただ黙っているだけだった。		你知道我胸中的愁郁,*所以*只得默默的不出声,	A	葛蘿行	葛蘿行
私と龍児は帰れます◆から◆、あなたと一緒に来なくてもいいのよ。		我与龙儿是可以回去的,你可以不必同我们去。		C	葛蘿行	葛蘿行
	林夫人は座ってしばらくすると、だんだんしゃっくりがおさまってきた◆ので◆、娘を猫可愛がりするいつもの日課を開始した。		林大娘坐定了半晌以后,渐渐少打几个呃了,*就*又开始她日常疼爱女儿的功课。	B	林家铺子	林家店
	その田舎の青年が顔を真っ赤にして、首を振り、傘を置いて行こうとしたとされた◆ので◆、林氏は急いで一歩譲って言った。		那年青的乡下人满脸涨红,摇一下头,放了伞也就要想走,这可把林先生急坏了,赶快让步问道:	C	林家铺子	林家店
	林小姐はすでにあの両開きの扉のところにいなかった◆ので◆、それは聞こえなかった。		林小姐早已不在那对蝴蝶门边了,没有听到。	C	林家铺子	林家店
持って来なくていい、あたしが持っていくんだ◆から◆。		不要送,让我带了去。		C	林家铺子	林家店
	朱三のばあさんが利息の取り立てに来た◆ので◆、彼はほかにも二件の出資金があったのを思い出した。		*因*这朱三太的上门讨利息,他记起还有两注存款,	A	林家铺子	林家店
	店の寿生はおととい回収に向かったのだ◆から◆、どんなに遅くとも二十六日には帰ってくる。		店里的寿生是前天出去收帐的,极迟是二十六应该回来了;	C	林家铺子	林家店
	時々店にまで出てきて商売を手伝ったが、林夫人が何度も彼女を呼んだ◆ので◆、やっとなんか中に入って行って、		有时竟在铺面帮忙招呼生意,直到林大娘再三唤她,方*才*跑进去,	B	林家铺子	林家店
私たちは長いお付き合いです◆から◆、今日先にお知らせとします。		我们也算是老主顾,今天先透一个信,		C	林家铺子	林家店
	彼の店では自分の資本はとっくになくなっていた◆から◆、一旦精算してしまえば、彼のもとに残るのは一家三人の裸の体だけだろう。		他这铺子里早已没有自己的资本,一旦清理,剩给他的,光景只有一家三口三个光身子!	C	林家铺子	林家店
	林小姐ニコニコしっぱなしだったのは、店の商売が繁盛しているし、また緞子の旗袍もできあがってきて、さらには上海でついに戦争が始まり、日本人をやっつけている◆から◆だった。		林小姐笑不离口,*为*的铺子里生意好,*为*的大绸新旗袍已经做成,也*为*的上海竟然开战,打东洋人。	A	林家铺子	林家店
	実際上海が戦争になって銭荘が金を貸してくれないもので、お互い長い付き合いだ◆から◆、どうか格別の扱いをお願いしたいと。		实在是因为上海打仗钱庄不通,彼此是多年的老主顾,务请格外看承。	C	林家铺子	林家店
	彼の債権者はまだ多い◆から◆、万一彼らが一齐にこれをまねたら、彼の店は即刻閉鎖するしかない。		他的债户还多着呢,万一群起做尤,他的铺子只好立刻关门。	C	林家铺子	林家店
	今日はまったく思いも寄らない事情で、情勢全体がこんなんだ◆から◆、どうしようもない、自分たちがずるく言い逃れようとしているのではないと、		今儿实在是意外之变,大局如此,没有办法,非是他们刁赖。	C	林家铺子	林家店
時勢が悪くて、全くどうしようもない不景気です◆から◆、もともとしっかりしていた店だって、今年はみんなやりくりがつかんのです。		时势不好,市面清得不成话,素来硬朗的铺子今年都打饥荒,		C	林家铺子	林家店
	店には前から残っていた色紙があった◆ので◆、寿生が大きいのを裁断し、筆を取って書いた。		店里本来还有余剩下的红绿纸,寿生大张的裁好了,拿笔就写。	C	林家铺子	林家店
	しかしあの三人は何も分かっていない◆ので◆、かえってあしらいにくい。		可是这三位不懂什么的,倒也难以对付;	C	林家铺子	林家店
	しかしあの三人は何も分かっていない◆ので◆、話を聞いた途端びっくりして声も出なかった。		林先生做梦也想不到会有这样的难题,当下怔住了做不得声。		林家铺子	林家店
おしらは古い仲間だ◆から◆、何でもあけすけに言える。		我们是老朋友,什么话都可以讲个明白。		C	林家铺子	林家店
まして、下局長がその気なんだ◆から◆、断ればいろいろ不都合が生じるだろう。		况且,卜局长*既然*有了这个心,不答应他有许多不便之处;		A	林家铺子	林家店
	店は商売で忙しかった◆ので◆、寿生も自分で探りに行く時間がなかった。		店里生意忙,寿生*又*不能抽空身子尽自去探听。	B	林家铺子	林家店
	彼は林小姐に、自分がある◆から◆、気を落ち着けて「奥様」の世話をしよう頼んだ。		他叮嘱林小姐且安心伴着“师母”,外边事有他呢。	C	林家铺子	林家店

日本語(訳文)		中国語(原文)				
会話文	地の文	会話文	地の文		作品名	訳文
	こうして、外の商売を切り盛りしながら、しきりに聞いてくる林夫人に気を使いつつ言葉を選んで対応しなければならなかった◆ので◆、寿生にはなおさら林氏の行方を探る時間がなくなってしまった。		这样又要照顾外面的生意,又要挖空心思找出话来对付林大娘不时的追问,寿生更没有工夫去探听林先生的下落。	C	林家铺子	林家店
	寿生はため息をつき、いい考えが浮かばなかった◆ので◆、しばらく黙っていたが、またため息をついて言った。		寿生叹了口气,没有主意,停了一会儿,他又叹一口气说:	C	林家铺子	林家店
おまえは林夫人に旦那はまだひどい目にあっていない◆から◆安心するように言ってくれ。		你去对林大娘说,放心,还没吃苦。		C	林家铺子	林家店
主人がおりません◆ので◆、私には決められません。		师傅不在,我不能作主。		C	林家铺子	林家店
奥様はそういう性格なんです◆から◆、私にもどうしようもありません。		师傅是这种脾气,我也是没法。		C	林家铺子	林家店